

子ども食堂 いちちょう庵でボランティア活動①

子ども食堂 いちちょう庵にて食育活動に参加しました。5月29日（日）8：30～15：00。参加生徒9名。鰯の手開きやいか・ほたて・大あさりの下処理を行い、フライと骨の素揚げ、網焼きにして美味しくいただき、

“命の循環”について子どもたちと一緒に楽しく学ぶことができました。この活動を活かして、地域の子育て支援やフードロスについて調べ、食の大切さを子どもたちに伝えていきたいです。



【生徒の感想】

- ・食品ロスを減らすための調理方法や食べ方を小学生の子どもたちと学ぶことができ貴重な一日になりました。地域の人たちとのつながりや絆の大切さを改めて実感しました。SDGsの様々な課題解決は、皆の協力により実現するものです。私は、このボランティアを通して、これから出会うたくさんの人たちとの縁を大事にしようと思いました。三嶋咲良
- ・捨てられてしまう骨も素揚げにすることで美味しく食べられることが分かりました。廃棄部位でも、調理の仕方によっては、美味しく食べられ、栄養摂取につながります。亀山湧也
- ・命ある食材を扱うことで、命をいただくことの大切さや食品ロスについて子どもたちと楽しく学ぶことができた。私たちは、食べられることへの感謝を忘れてはいけないと思った。子どもたちに伝えることや教えることは、思いのほか大変で、活動を継続されているいちちょう庵の方はすごいと思った。石原 那菜
- ・鰯の手開きや魚介類をさばくことなど貴重な体験をさせていただく中で、命をいただき自分の命は生かされていると改めて感じる事ができた。食品ロスが深刻となっている現在、食べ物に対して感謝をするという意識が薄れていると思う。“命の大切さ”を多くの人たちに広めていきたいと思った。岩田美羽

子ども食堂 いちちょう庵でボランティア活動②



【生徒の感想】

・今回のボランティア活動に参加し、家庭や学校を離れて、普段できないような体験をすることができました。命の大切さ、食への感謝を子どもたちと共有できることができました。中俣乃音

・岡田さんや漁業従事者・スタッフの方からの話を聞き、私たちは命をつなぐために、命をいただいていることを再認識しました。また、子どもたちと過ごすことで子どもとの関わり方についても学びました。山岸和華

・「子ども食堂について知るこ」と、「子どもたちと交流し楽しく活動すること」を目標にこの活動に参加しました。子ども食堂は、地域の方との交流の場、子どもたちがのびのびと楽しめる場だと感じました。松岡優月

・子ども食堂の雰囲気は、明るく活気がありとても楽しかった。話を聞く場面では、子どもたちは皆、姿勢を正し静かに耳を傾けており、普段の活動でも礼儀作法やコミュニケーションを大切にしているのだろうと感じた。林南帆



はじめての「子ども食堂」に最初はとても緊張したけれど、子どもたちから笑顔で話しかけてくれて楽しく活動に参加することができました。「また来てね〜!」子どもたちの言葉がとても嬉しかったです。次は、私たち高校生から食育活動を発信していきたいです。命の大切さやフードロス削減、SDGsについて楽しみながら学べる企画を考えています。

家庭クラブ会長 西村花菜